

陸上競技実施要項

- 1 期 日 平成22年7月17日(土)・18日(日)
- 2 会 場 大分市営陸上競技場
(協力校：大分工業高等専門学校)
- 3 参加人員 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、各種目別競技者
- 4 種 目 (男子) 17種目
100m、200m、400m、800m、1,500m、5,000m、110mH、
4×100mリレー、4×400mリレー、200m(オープン)、1,500m(オープン)、
走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投(6.0kg)、円盤投(1.75kg)、やり投
(女子) 5種目
100m、800m、4×100mリレー(オープン)、走幅跳、砲丸投(4.0kg)
- 5 競技規則 2010年度日本陸上競技連盟競技規則と本大会実施要項による。
- 6 競技方法
 - (1) 学校対抗とする。ただし、女子は加点しない。
 - (2) 得点は1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点とする。
 - (3) 最多得点校を優勝校とする。ただし、同点の場合の順位決定は、上位入賞種目の多い学校を上位とする。
- 7 出場資格及び制限
 - (1) 競技者は、平成22年度日本陸上競技連盟(各県陸上競技協会)に登録した者に限る。
 - (2) 1人2種目以内とする。ただし、リレーを除く。
 - (3) 1種目各校3名以内とする。
 - (4) 4×100mリレー及び4×400mリレーは、各校1チームとする。
 - (5) リレーの申込みは6名連記とする。
 - (6) 補欠競技者としての申込みは、全種目を通して3名以内とする。競技者の変更は補欠競技者として申込んだ3名以内に限るものとし、その変更は監督会議において承認を得るものとする。
 - (7) 男子種目の参加標準記録は100m 12秒2、200m 25秒0、400m 56秒0、800m 2分12秒0、1500m 4分35秒0、5000m 18分00秒0、110mH 20秒0以内とし、走高跳1m55、走幅跳 5m50、三段跳 11m50、砲丸投 9m00、円盤投 25m00、やり投 30m00以上とする。
- 8 参加申込書等について
陸上競技参加申込書と陸上競技種目別一覧及び個人申込書、リレーメンバー申込書の提出期限は平成22年6月18日(金)とする。

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は、2010年度日本陸上競技連盟競技規則によって行う。
2. 競技者の招集について

- ア 招集所は200mスタート付近とする。
- イ 各種目の招集開始時刻及び完了時刻は次のとおりとする。

競 技 種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始15分前
フィールド競技	競技開始60分前	競技開始40分前

- ウ 競技者は招集所において、ナンバーカード持参の上、競技者係のチェックを受けること。
 - エ トラック競技は出発地点、フィールド競技は現地記録席付近にて競技開始の10分前に最終点呼を取る。
 - オ 代理人による招集は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に競技者係に申し出ること。
 - カ 棄権をする競技者は、本人または監督が棄権届用紙（招集所に準備）に記入し、招集開始時刻までに招集所に提出すること。
 - キ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとみなし処理する。
3. ナンバーカードについて
 - ア ナンバーカードは各校で準備すること。
 - イ ナンバーカードは胸、背につけ、トラック競技出場者は招集所で借りたレーンナンバーカードを右腰やや後方に付ける。ただし、リレーに出場する競技者は第4走者のみでよい。
 - ウ ナンバーカードは次のとおりとする。

101～久留米 201～有明 301～北九州 401～佐世保
501～熊本高専（熊本） 601～熊本高専（八代） 701～大分
801～都城 901～鹿児島 1001～沖縄
 4. リレー競技について
 - ア オーダー用紙は当該種目競技開始時刻60分前までに競技者係に提出する。
 5. 走路順・競技順序について
 - ア トラック競技の予選における走路順及びフィールド競技の試技順は、プログラムに記載の番号の左に1. 2. 3. . . . の数字で示す。

6. 競技の抽選および番組編成について

- ア トラック種目における決勝へのプラス進出者については、該当競技の最下位に同記録が複数出た場合、写真判定主任が、同記録者の写真を拡大して、タイムだけでなく、より細かく優劣を判定して進出者を決める。それでも決まらない場合は着順を優先して抽選する。ただし、1500mでの同記録者は、全員次のラウンドへ進むことができる。
- イ 写真判定装置不動作の場合は、その種目の当該ラウンド全組を手動計時にかえ着順優先で判定する。

7. 走高跳のバーの上げ方について

- ア 練習は 1m50、試技開始は 1m55、 1m60、 1m65、 1m70、 1m75、 1m80とし以後は3cmきざみとする。第1位が同記録の場合、順位決定のためバーの上げ下げは、2cmきざみとする。
- イ 上記のバーの上げ方は、天候やその他の条件により変更することがある（審判長が決定する）。

8. 用器具について

- ア この大会で使用する用器具類は、競技場にあるものを使用する。
- イ 男子円盤、男子やりについては、個人持参のものを主催者で検査のうえ使用を認める。ただし共通利用とする。

9. 表彰について

- ア 表彰は、当該種目終了後直ちに行う。3位までに入賞した者は、本部の表彰者控室で待機し、係員の誘導に従うこと。

10. 全国大会への出場権について

- ア この大会における男子3位（リレー競技は2位）、女子2位までの入賞者は、全国高等専門学校体育大会への出場権を得ることになる。
- イ トラック種目における全国大会出場枠の最下位に同着が複数出た場合、再レースを実施する。

11. その他

- ア 投てきの練習は、すべて競技場内で行うこと。競技場内では係員の指示に従い行うこと。特に危険防止につとめること。
- イ 全天候舗装路のためスパイクのピンは、9mm以下のものを使用すること。また、走高跳および槍投の場合は、12mm以下のものを使用すること。
- ウ 5,000mは、天候によって給水を行うことがある。